

[果樹部門 令和5年度 参考となる研究成果]

事 項 名	おうとう害虫ウメシロカイガラムシの「収穫後（8月上～中旬の幼虫ふ化最盛期）」のブプロフェジン水和剤（アプロードフロアブル）による防除法		
ね ら い	これまで、青森県おうとう病害虫防除暦及び防除指針では、ウメシロカイガラムシ対策として、第1世代雌成虫を対象とした「収穫後（7月中～下旬）」の防除を指導してきた。しかし、この時期の防除薬剤（スプラサイド水和剤）が製造中止となった。そこで、新たな防除法を検討し、第2世代ふ化幼虫を対象とした「収穫後（8月上～中旬の幼虫ふ化最盛期）」散布の実用性を明らかにしたので参考に供する。		
内 容	<p>1 防除法 ウメシロカイガラムシの発生が多い樹では、第2世代ふ化幼虫の移動が最盛期になる収穫後の8月上～中旬（幼虫ふ化最盛期）にブプロフェジン水和剤（アプロードフロアブル）1,000倍を散布する。</p> <p>2 アプロードフロアブルの作用特性 アプロードフロアブルはIGR剤（昆虫成長制御剤）であり、幼虫が樹液を吸汁することで有効成分が取り込まれ、脱皮が阻害されて死亡する。</p> <p>3 アプロードフロアブルの概要 (1) 一般名：ブプロフェジン水和剤 (2) 商品名：アプロードフロアブル (3) 有効成分：ブプロフェジン(IRAC 16) 20.0% (4) 人畜毒性：普通物</p> <p>4 アプロードフロアブルの使用基準（おうとう） (1) 適用害虫：カイガラムシ類幼虫 (2) 希釈倍数：1,000～1,500倍 (3) 使用方法：散布 (4) 散布液量：200～700L/10a (5) 使用時期：収穫7日前まで (6) 使用回数：2回以内 (7) ブプロフェジンを含む農薬の総使用回数：2回以内</p>		
期待される果効	ウメシロカイガラムシの被害の軽減を図ることができる。また、うめ、あんずのウメシロカイガラムシ対策と同一の防除法であるため、おうとう、うめ及びあんずの複合経営において防除作業能率が高まることが期待される。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は令和4年12月26日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任の下に使用すること。 「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/)</p>		
問合せ先（電話番号）	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域	県内全域のおうとう作付及び経営体経営体
発表文献等	令和4年度 りんご研究所試験研究成績概要集（特産果樹）		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 ウメシロカイガラムシ雌成虫の個体数

(令和 4 年 青森りんご研県南果樹)

供試薬剤・ 希釈倍数	散布時期	反復	1区(3枝合計)当たり寄生数		補正密度指数	葉害
			散布前 第 1 世代雌成虫数	散布1か月後 第 2 世代雌成虫数		
アプロードフロアブル 1,000 倍	8月上～中旬 (幼虫ふ化 最盛期)	I	63	10	—	なし
		II	32	1	—	なし
		III	95	12	—	なし
		計	190	23	3.9	—
(対照区) スプラサイド水和剤 1,500 倍	収穫後(7月中 ～下旬)	I	48	2	—	—
		II	91	1	—	—
		III	56	2	—	—
		計	195	5	0.8	—
無処理	—	I	55	175	—	—
		II	76	316	—	—
		III	63	104	—	—
		計	194	595	100	—

- (注) 1 供試樹：「佐藤錦」(16年生)、1区3枝3反復、5月19、27日にウメシロカイガラムシ雌成虫が同程度寄生している枝を供試樹に接種。
- 2 散布：8月8日の1回散布(対照区は7月26日の1回散布)、展着剤(グラミンS10,000倍)加用
- 3 調査：散布前(7月25日)と散布1か月後(9月8日)に雌成虫の個体数を調査した。なお、散布1か月後調査の際は、雌成虫の殻を取り除き、生存している虫数のみを調査した。葉害は8月11日(散布3日後)、8月16日(散布8日後)、8月22日(散布14日後)、9月2日(散布25日後)に、葉の葉害を肉眼で調査した。

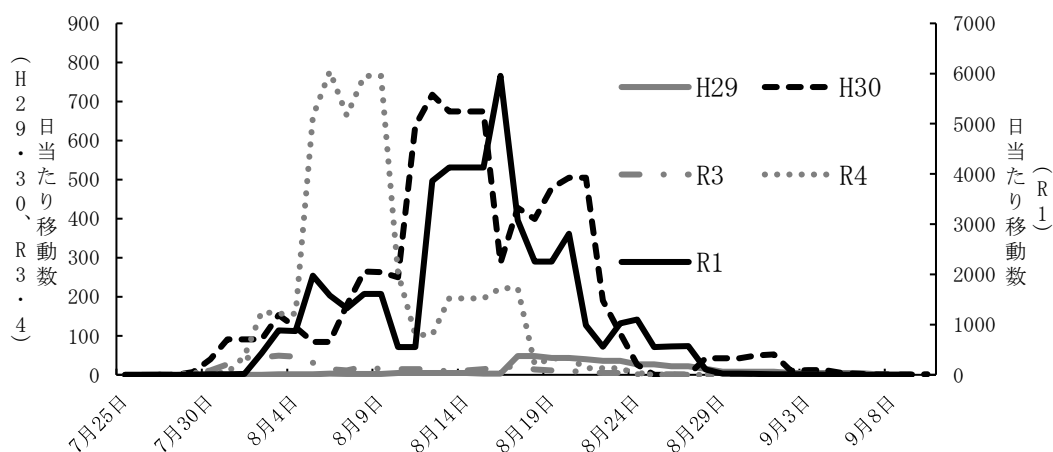


図 1 ウメシロカイガラムシ第 2 世代ふ化幼虫の移動消長 (5 日平均)

(平成 29～令和元年、令和 3～4 年 青森りんご研県南果樹)

(参考価格) 1,000 倍 10 a 当たり 500 L 散布で、2,589 円 (税込)